

## Editorial

## 患者視点による脳卒中リハビリテーションの3期

出江紳一<sup>1</sup><sup>1</sup>東北大学大学院医工学研究科リハビリテーション医工学分野 教授

Izumi S. Three stages of stroke rehabilitation based upon patients' perspective. *Jpn J Compr Rehabil Sci* 2018; 9: 1-2.

脳卒中のような急性発症疾患のリハビリテーションは、一般に急性期、回復期、維持期と分類されてきた。近年では地域包括ケアの理念に沿う形で維持期は生活期と呼ばれるようになった。しかし、この3期分類には科学的根拠がなく、それぞれの時期がいつからいつまでを指すのかの明確な基準もない。一般的には、急性期再発・増悪、脳循環の自動調節能、麻痺肢の筋緊張、麻痺肢の機能回復曲線、日常生活活動の獲得、身体障害の認定時期、傷病手当金給付期間などにより判断されていると思われる。つまり、医学・生物学的な不安定さと医学的管理の必要度により急性期と回復期が区分され、回復曲線と医療・福祉制度により回復期と生活期が区分されているように思われる。あらためて見直してみると、3期分類はそもそも医療者側が用いるモデルであり、区切りのための上記の目安も医療者側の言葉である。それでは患者・家族は、脳卒中という疾病をどのように体験しているのだろうか。この問題は、従来、障害受容の枠組み、あるいは障害への適応過程として扱われてきた。本エディトリアルでは、脳卒中リハビリテーションの3期を患者体験という視点で考え直してみたい。以下は筆者の経験と知識に基づく一つの考え方である。

患者・家族が気にするのは症状である。突然に麻痺が生じ、時には増悪していく。それが小康状態を迎えるまでが一つの時期である。これを増悪期と呼ぶ。次に弛緩していた麻痺肢に緊張が戻ったり、随意収縮が可能になったりする時期が始まる。現在の医療であれば急性期リハビリテーション訓練が施行され、座位、立位、離床が開始される。麻痺肢の回復が始まっても、機能回復訓練が始まるこの時期はもう回復期と呼べるだろう。つまり、ほぼ72時間以内に患者にとっての回復期は始まる。その次にくるのは何か。

脳卒中後遺症により病前とは違う身体で家庭や社会に適応する時期は客観的には生活期だが、内的体験がそれに合致しているかどうかは疑わしい。その不適合が顕著な場合に医療者からは障害受容に問題があると言われる。患者・家族には、病前と病後をつなぐ物語りが必要であるように思われる。その物語りが生き甲斐とともに語られたときが、回復期の次の始まりではないかという気がする。新しい人生が始まるこの時期を新生期と呼びたい。

医療者視点での回復期においては、生活がリハビリテーション診療の中に統合され、日常生活活動の尺度で測定される帰結を最大化することを目指す。患者視点では、リハビリテーションは生活の一部に組み込まれ、患者が欲することの実現に向う。なお、「リハビリテーションを生活の一部に組み込む」とは、訓練を漫然と継続することを意味するのではなく、機能の改善を活動・参加に結びつける方略を自らのものとすることであり、生活への再適応というゴール達成をもって、リハビリテーション介入そのものは終了する。

新生期に至る物語りの構築を支援することが患者中心のリハビリテーション医療の根幹ではないかと筆者は考えている。患者の内的体験は分らないが、語られる物語りに共感し、それに寄り添うプロセスと極意を、同じ志を持つ仲間との数年間の研究を通して、図に示すようにまとめた [1]。これはもともと訪問リハビリテーションのプロセスと極意として作成したものであるが、患者視点による回復期とその支援ととらえることもできる。回復期は、目標達成に向けた客観的な機能回復の過程と、自ら設定した課題の解決に向う患者体験としての物語りが紡がれる過程とが、DNAの二重螺旋のように進んでいく時期であるように思われる。図に記された極意は患者体験を置き去りにしないための心構えであると考えている。

## 文献

1. Izumi S, ed. Project Team for Development of Community-based Rehabilitation. Seven Secrets for Home-visit Rehabilitation. Tokyo: Houken; 2016.

著者連絡先：出江紳一  
東北大学大学院医工学研究科リハビリテーション医工学分野  
〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1  
E-mail: izumis@med.tohoku.ac.jp  
2018年1月4日受理

本研究において一切の利益相反や研究資金の提供はありません。

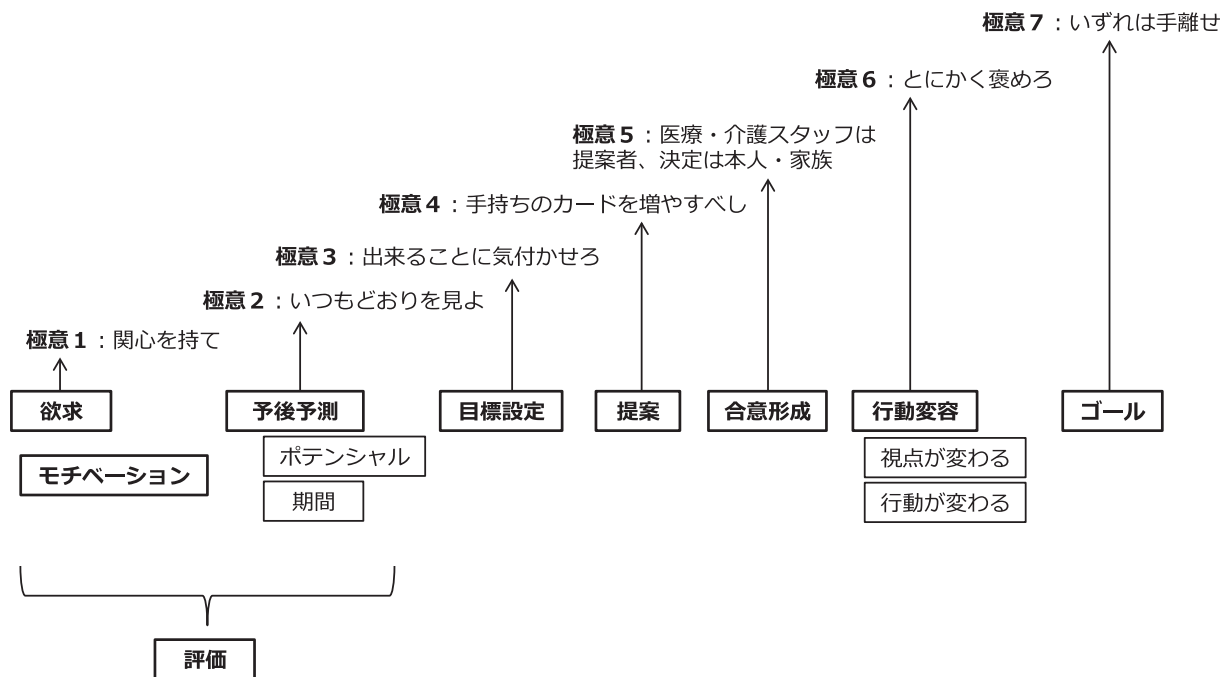


図. リハビリテーションのプロセスと7つの極意